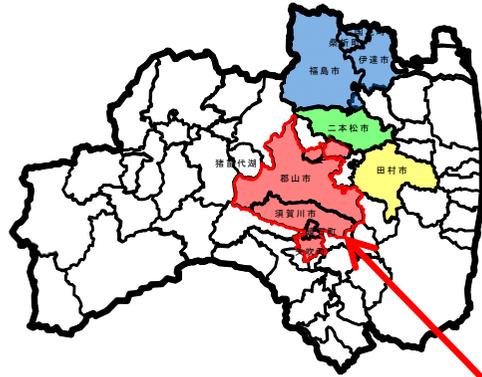


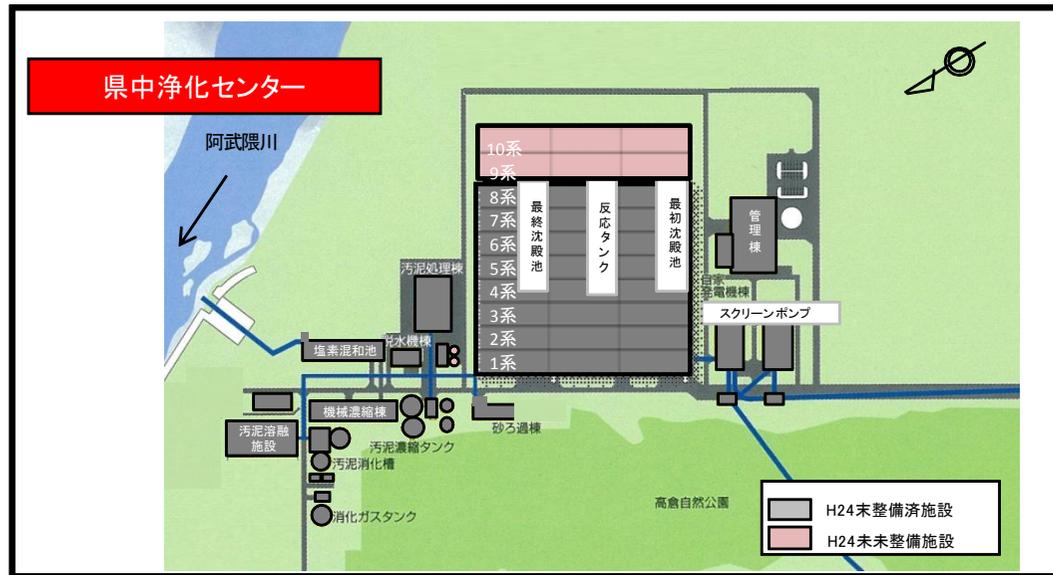
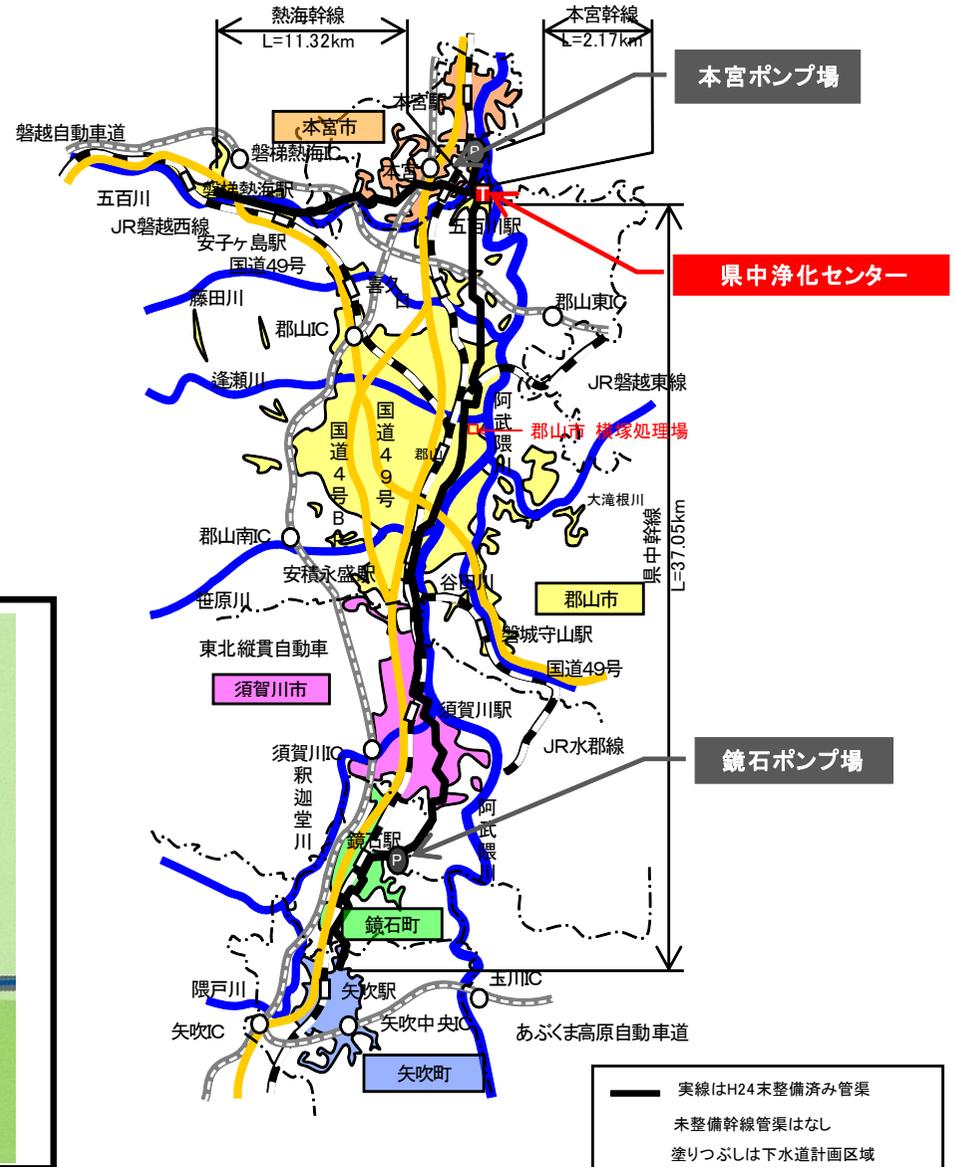
平成26年度事業別評価調書（チェックリスト）

整理番号	138	事業名	社会資本整備総合交付金		補助 単独	地区名 (事業箇所名)	阿武隈川上流域 下水道(県中処理区)	関係 市町村名	郡山市、須賀川市、 本宮市、鏡石町、 矢吹町	担当部(局) 課名	土木部 下水道課																																																					
評価の対象となる理由	第1項第4号:評価実施から5年を経過し継続中の事業					前回(平成21 年度)評価時 の対応方針	委員からの提言: 事業継続 付帯意見: なし		県の対応方針: 事業継続																																																							
事業根拠法・要綱等の名称	下水道法第25条の2、25条の3																																																															
事業の概況	<p>[事業目的及び全体計画]</p> <p>(1) 事業目的 阿武隈川流域の水質保全と、計画区域内の生活環境の改善を目的とする。</p> <p>(2) 全体計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ○計画処理面積: < 11,092 ha > ○計画処理人口: < 378,450人 > ○計画処理水量: < 229,410 m³/日 > ○管渠延長: < 58,000 m > <p>平成22年度に県が策定した「ふくしまの美しい水環境整備構想」に基づき、県全域で汚水処理計画を見直した。</p> <p>< > は平成21年度評価時</p>						<p>[事業に関する社会経済情勢] (特記すべき事項)</p> <p>(1) 現在の状況 下水道は、公共用水域の水質保全や生活環境の改善を図るためには欠くことができない施設であり、都市の基盤施設としての認識が定着している。 しかし、下水道整備の一般的な指標である下水道普及率は、県中処理区平均で63.4%となっており、県平均49.6%を上回っているものの全国平均の76.3%を下回っている。</p> <p>(2) 変化の有無 有・無</p> <p>(3) 変化の内容 事業に係る地権者及び周辺住民から事業に対する協力が得られている。</p>																																																									
	事業の採択年度	S51	完成目標年度	<H27> H39	用地着手年度	S52	工事着手年度	S52																																																								
	事業費(百万円)	全体事業費 (うち用地費)	これまでの投資事業費合計	左の財源内訳又は負担割合	これまでの年度別投資実績(26年度は見込額である。)																																																											
		<99,500> 88,400 (3,604)	<76,709> 79,305 (3,604)	国 1/2,2/3 県 1/4,1/6 市町村 1/4,1/6 その他 -	~23年度	24年度	25年度	26年度																																																								
進捗率	事業費ベース	89.7%	用地費ベース	100.0%	その他()																																																											
事業の進捗状況	<p>[整備の状況]</p> <p>管渠は、全体管渠延長約50.5kmが全て供用済みである。処理場は、昭和63年10月に郡山市、(旧)本宮町、平成4年10月に須賀川市、平成6年6月に鏡石町、平成7年4月に矢吹町が供用開始している。また、郡山市の横塚処理場の合流改善に伴い、H19年度末に流域下水道へ切替を行い、平成25年度末で142,800m³/日の水処理施設を供用している。</p> <p>[事業実施上の課題や問題点、今後の事業見通し]</p> <p>流入水量の伸びが小さく、当面、既存施設能力で処理が可能である事から整備事業は休止し、流入水量の伸びを見ながら、事業の再開時期を見極める。</p> <p>[関連事業の進捗状況]</p> <p>流域下水道事業は、幹線管渠および終末処理場を整備する県と流域関連公共下水道事業として面整備を実施する関連市町が一体となって整備するものである。関連市町はいずれも一部供用を開始しており、下水道処理人口普及率(市町の行政人口に対して下水道を利用できる人口の割合)の平成24年度末の値は以下のとおりである。 <郡山市:70.9% 須賀川市:41.4% 本宮市:39.8% 鏡石町:75.8% 矢吹町:57.5%</p>																																																															
	みなし進捗率 = (B) / (A) = 123% > 70%		投資済事業費 (B) = 79,305 (百万円)																																																													
	みなし事業費 (A)		$\frac{\text{全体事業費 } 88,400 \text{ (百万円)}}{\text{全体工期 } 52 \text{ (年)}} \times \text{経過年数 } 38 \text{ (年)} = 64,600 \text{ (百万円)}$																																																													
			評価		A		B、		C																																																							
<p>[事業に関連する評価指標等]</p> <p>(1) 主要な評価指標の変化</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>下水道処理人口普及率 (下水道処理人口÷行政人口)</th> <th>事業採択時 (S51末)</th> <th>前回評価時 (H19末)</th> <th>今回評価時 (H24末)</th> <th>増減(+/-) (H19-H24)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(全国平均)</td> <td>24.0%</td> <td>71.7%</td> <td>76.3%</td> <td>+4.6ポイント</td> <td>(88.1%)</td> </tr> <tr> <td>(県平均)</td> <td>7.7%</td> <td>45.7%</td> <td>49.6%</td> <td>+3.9ポイント</td> <td>(76.5%)</td> </tr> <tr> <td>(県中処理区平均)</td> <td>14.9%</td> <td>60.1%</td> <td>63.4%</td> <td>+3.3ポイント</td> <td>(83.8%)</td> </tr> <tr> <td>県中処理区 (郡山市)</td> <td>20.4%</td> <td>68.2%</td> <td>70.9%</td> <td>+2.7ポイント</td> <td>(87.0%)</td> </tr> <tr> <td>関連市町村 (須賀川市)</td> <td>0.0%</td> <td>35.8%</td> <td>41.4%</td> <td>+5.6ポイント</td> <td>(74.7%)</td> </tr> <tr> <td>(本宮市)</td> <td>0.0%</td> <td>38.4%</td> <td>39.8%</td> <td>+1.4ポイント</td> <td>(68.4%)</td> </tr> <tr> <td>(鏡石町)</td> <td>0.0%</td> <td>71.3%</td> <td>75.8%</td> <td>+4.5ポイント</td> <td>(91.0%)</td> </tr> <tr> <td>(矢吹町)</td> <td>0.0%</td> <td>48.6%</td> <td>57.5%</td> <td>+8.9ポイント</td> <td>(88.7%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※福島県の普及率は、調査困難な8市町村を除いた参考値であり、全国の普及率も調査不能な市町村があった福島県を公表対象外とした46都道府県の普及率 ※備考欄の〇書きは、H24末の農業集落排水事業、合併浄化槽等を含んだ汚水処理人口普及率 (2) その他特記すべき事項 特になし [環境への影響等] 希少野生動植物の情報に基づく対応 実施 ・ 未実施() (1) 環境への影響内容とその対策 ・ 希少野生動植物については、基礎情報ファイル(1次ファイル)検索により、「ふくしまレッドデータブック」に掲載されている希少種が存在していないことを確認している。 ・ 処理場の周辺景観との調和を図るため植栽や修景施設の整備を実施している。 ・ 処理場の施設を開放し、水循環保全の意識を高める環境学習の場として活用している。 (2) その他特記すべき事項 特になし</p>											下水道処理人口普及率 (下水道処理人口÷行政人口)	事業採択時 (S51末)	前回評価時 (H19末)	今回評価時 (H24末)	増減(+/-) (H19-H24)	備考	(全国平均)	24.0%	71.7%	76.3%	+4.6ポイント	(88.1%)	(県平均)	7.7%	45.7%	49.6%	+3.9ポイント	(76.5%)	(県中処理区平均)	14.9%	60.1%	63.4%	+3.3ポイント	(83.8%)	県中処理区 (郡山市)	20.4%	68.2%	70.9%	+2.7ポイント	(87.0%)	関連市町村 (須賀川市)	0.0%	35.8%	41.4%	+5.6ポイント	(74.7%)	(本宮市)	0.0%	38.4%	39.8%	+1.4ポイント	(68.4%)	(鏡石町)	0.0%	71.3%	75.8%	+4.5ポイント	(91.0%)	(矢吹町)	0.0%	48.6%	57.5%	+8.9ポイント	(88.7%)
下水道処理人口普及率 (下水道処理人口÷行政人口)	事業採択時 (S51末)	前回評価時 (H19末)	今回評価時 (H24末)	増減(+/-) (H19-H24)	備考																																																											
(全国平均)	24.0%	71.7%	76.3%	+4.6ポイント	(88.1%)																																																											
(県平均)	7.7%	45.7%	49.6%	+3.9ポイント	(76.5%)																																																											
(県中処理区平均)	14.9%	60.1%	63.4%	+3.3ポイント	(83.8%)																																																											
県中処理区 (郡山市)	20.4%	68.2%	70.9%	+2.7ポイント	(87.0%)																																																											
関連市町村 (須賀川市)	0.0%	35.8%	41.4%	+5.6ポイント	(74.7%)																																																											
(本宮市)	0.0%	38.4%	39.8%	+1.4ポイント	(68.4%)																																																											
(鏡石町)	0.0%	71.3%	75.8%	+4.5ポイント	(91.0%)																																																											
(矢吹町)	0.0%	48.6%	57.5%	+8.9ポイント	(88.7%)																																																											
		評価		A		B、		C																																																								

[位置図] 及び [事業概要図]



阿武隈川上流流域下水道 (県北処理区)	福島市, 伊達市 桑折町, 国見町
阿武隈川上流流域下水道 (二本松処理区)	二本松市
阿武隈川上流流域下水道 (田村処理区)	田村市
阿武隈川上流流域下水道 (県中処理区)	郡山市, 須賀川市 本宮市, 鏡石町, 矢吹町



(別紙)

費用対効果分析

阿武隈川上流流域下水道事業（県中処理区）

【今回】

$$\frac{\text{効果（便益）} B}{\text{費用} C} = \frac{B① + B② + B③ + B④ + B⑤}{C① + C② + C③}$$

[費用項目]

C①：建設費

C②：用地費

C③：維持・管理費

・過年度の実績から求めた m³ 当たり維持管理単価に関連市町村からの流入水量を乗じて算出

[効果項目]

B①：生活環境の改善（水路覆蓋化、水路清掃費）

B②：便所の水洗化（浄化槽設置費及び維持管理費、汚泥処理施設建設費・用地費及び維持管理費）

B③：公共用水域の水質保全（公共用水域の環境価値）

B④：合流式下水道の改善効果

B⑤：残存価値

[考え方]

・事業採択年度から流域下水道の整備が完了後 50 年間に生ずる効果額、費用額を現在価値比較法により算出し比較する。

・「下水道事業における費用効果分析マニュアル（案）（平成 18 年 11 月）」及び「事業評価において評価時点より前に計上される費用及び便益の現在価値化について（通知）（平成 23 年 10 月 17 日）」に基づき、生活環境の改善効果、便所の水洗化効果、公共用水域の水質保全等に対する便益と投資費用とを現在価値比較法により、流域関連公共下水道事業も含めて算定した。

・評価実施年度より前に計上された費用及び便益についても、社会的割引率 4 % を用いて、現在価値に換算した。

計算式

（単位：百万円）

$$\frac{\text{効果（便益）} B}{\text{費用} C} = \frac{675,019.9 + 536,340.3 + 187,757.2 + 50,106.9 + 134,530.0}{769,877.6 + 14,127.5 + 194,131.8} = \frac{1,583,754 \text{ 百万円}}{978,137 \text{ 百万円}} = 1.62 \geq 1.00$$